

American Rock Lyric Landscape

—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジョージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第29回

ジーニー・C・ライリー 「ハーパー・ヴァリーPTA」

ガラスの家に住む人は石を投げてはいけない



Jeannie C. Reilly
Harper Valley P.T.A.
Plantation ● PLP1 [1968]

スの家に住む人は石を投げてはいけない。これは、隠しごとをしている人が隣人を攻撃すると、逆に反撃を招くという意味だ。

68年当時、俺はテキサス州のダラスに住んでいた。その頃、既にLAやNYではミニスカートに代表される自由な空気が流れていたが、テキサスのような田舎ではまだまだ受け入れられていなかった。同級生の6年生の女子では何人かがミニスカートを履いてたけど、ルーズな娘と思われていた。もちろん先生はロング・スカートだったよ。曲名にあるハーパー・ヴァリーは、いかにもアメリカの田舎にありそうな村の名前で、有名なハーパーズ・フェリーを思わせる。これはアメリカ人なら誰でも学校で教わる、ウェスト・ヴァージニアの街の名前だ。

アメリカで最初に鉄道が成功した街で、奴隷反対運動で有名になったジョン・ブラウンもここからその運動を始めた。南北戦争で一番多くの北軍が降伏したのもここだ。奴隷だった子供たちが通う学校と白人の学校が初めて統合されたのもここ。互換性部品製造が初めて成功したのもこの土地だ。

I want to tell you all a story

アメリカのカントリー・シングル・チャートや『ビルボード』ホット100でナンバー・ワンになり、アルバムもカントリー・チャートのナンバー・ワンに、そして『ビルボード』200チャートでは12位になった。当時はとても話題になった曲で、PTAの標的にされた派手な母親が、その会議に乗り込んで逆にギャフンと言わせる話だ。テーマはイギリスの諺で譬えれば、ハガラ

68年のアメリカでは、どのラジオ局にチューニングしても、この曲が流れていた。当時、レコードは薬局で売っていて、そこにはミニスカートを履いているジーニー・C・ライリーのアルバム・ジャケットのポスターが貼ってあった。皆が理解しやすいテーマなのだろう。この曲は歌というより、カントリーやブルースによくある、語り口調のトーキング・ストーリー・ソングだ。

Harper Valley P.T.A.

「そこで私たちは、あなたが娘さんをそんなふうに着てるおつもりではないかと心配しておりませう。」の「believe」は「思っつらる」。「bring up」は「育てる」と。「そして」その手紙はハーパー・ヴァリー中学のPTAの秘書によって署名されていました。

Well it happened that the P.T.A.

Was gonna meet that very afternoon
And they were sure surprised when
Mrs. Johnson

Wore her miniskirt into the room

「手紙が届いたその晩、偶然にもPTAの会議が開かれようとしていました。そこでジョンソン夫人がミニスカートを履いて会場に乗り込むと、一同は心底驚きました。」。「Well it happened」は、「偶然に」という意味だ。ちなみにミニスカートの発祥はロンドン。チェルシーにあったバザールという店のオーナー兼デザイナーのマリー・クアントが、64年に発表したと言われ

About Harper Valley widowed wife
Who had a teenage daughter
Who attended Harper Valley Junior
High

曲はこんなふうにはじまる。▲みんなにハーパー・ヴァリーの未亡人の話を教えてあげましょう。彼女にはハーパー・ヴァリー中学に通う十代の娘がいました。町の名称がその学校各になつていたので、このハーパー・ヴァリーの規模が小さらいと分かる。「Junior High」は小学校と高校の間の学校で、日本でいえば中学校。たまにミドル・スクールとも言われる。基本的に第七学年から第八学年だ。

Well her daughter came home one
afternoon
And didn't even stop to play
And she said, "Momma, I got a note
here from the Harper Valley P.T.A."

▲さて、ある午後、彼女の娘が遊びもせず家に帰って来ました。そして娘が言うに「ママ、ハーパー・ヴァリー

のPTAから手紙を預かってきたわ」と。PTAとは「Parent Teacher Association」の略で、日本の学校にもたまにある保護者と教師による会のことだ。

Well the note said
"Mrs. Johnson, You're wearing your
dresses way too high
It's reported you've been drinking
And a-runnin' around
With men and going wild

▲その手紙には「ママ、あなたの手紙は短かすぎませう。」「way too high」は裾が高過ぎ、「a-runnin' around」は走り回る。▲あなたは複数の男性とお酒を飲んで遊び回っては、ハメを外してらっしゃるようですね。」「a-runnin' around」は走り回るでござる、遊び回らるという意味だ。

And we don't believe you ought to be
A bringing up your little girl this way"
And it was signed by the secretary,

ている。彼女は、自分が一番好きだった英国車／＼から名前をとったようだ。

And as she walked up to the black-board,

I can still recall the words that she had to say

《そして彼女が黒板まで行き、言い放った言葉は今でも忘れられません》。I can still recall”は《思ひ出す／忘れられない／》という意味だ。

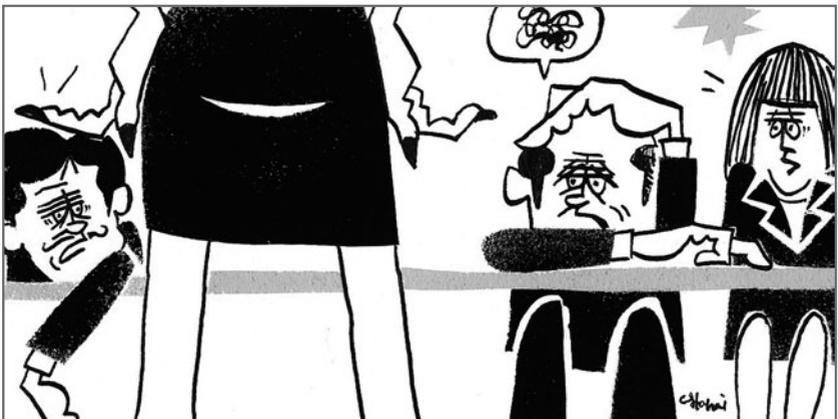
She said, "I'd like to address

This meeting of the Harper Valley P.T.A.

《彼女は言いました。私はハーバー・ヴァリー中学のこの会合でお話したいことがあります》。この 'address' は住所のことではなく、会議での発言や人に何か伝えるときにも使う動詞。ここから彼女は、皆が隠していた秘密をばらしてしまふ。

Well there's Bobby Taylor sittin' here

And seven times he's asked me for a



date

And Mrs. Taylor sure seems to use a lot of ice

Whenever he's away

《そこにボビー・テイラーが座っているけど、彼は私に7回もデートを申し込んできた。テイラーさんの奥様は、彼がいないときには水をたくさん使うわよね》。この 'ice' はロックで飲み酒に入れる氷を指す。《たくさんお酒を飲んでいる》と言いたかった。どうやらテイラー夫人は旦那の女癖のことをよく分かっているようだ。

And Mr. Baker, can you tell us

Why you're secretary had to leave this town?

And shouldn't widow Jones be told

To keep her window shades a

Pulled completely down?

《そしてベイカーさん、なぜあなたの秘書がこの村を出ていったかを教えてくださいな》。《と言ひ放つ》。《ジョーンズ未亡人にも窓のブラインドを下すようにと伝

えたのは、どういふことなのかしら》。

Well Mr. Harper couldn't be here

'cause he stayed too long at Kelly's Bar again

《そして、ハーバーさんが今日ここに不在なのは、ケリーさんのバーにまた長く居すぎたからよね》と言ふ。この 'Harper' の名前が出てくるのにも意味があると思う。アメリカは開拓の国だ。町や村にはそこを最初に開拓した人の名前が付けられている。このハーバー氏は、この小さな町の名士の家柄といった感じだろうか。

And if you smell Shirley Thompson's

breath

You'll find she's had a little nip of gin

And then you have the nerve to tell me

You think that as a mother I'm not fit

《それと、シャーリー・トン普森の息を嗅いでみたら、彼女が少しジンを飲んでることが分かるわよ》。'nip' は《ちょっ／＼》という意味。《それでもあなた方は

私が母として失格だと言ふ度胸があるのかしら》。'nerve to tell me' は、《損なことを私に言える度胸》ということだ。

Well, this is just a little Peyton Place

And you're all Harper Valley hypocrites"

《これでは、まるでちよつとした『ペイトン・プレイス』だわ。あなたたちはこのハーバー・ヴァリーの偽善者よ》という。『ペイトン・プレイス』は56年に発売された時、最初の十日間で6万冊も売れたグレイス・メタリアスの小説だ。『ニューヨーク・タイムズ』のベスト・セラー・リストに59週掲載していた。そして57年には映画になり、64〜69年の間はTVドラマが放映され大人気となった。この小説に出てくるペイトン・プレイスという村は実際にはないが、メタリアスの周囲で起こっていた話をベースにしたようだ。今のアメリカでは下劣な秘密を持つ人々が住む町のことをペイトン・プレイスと呼んでいる。

No I wouldn't put you on

Because it really did,

It happened just this way

The day my momma socked it to

The Harper Valley P.T.A.

The day my momma socked it to

The Harper Valley P.T.A.

ここから、この曲を歌う主人公が判明する。《私はあなたに嘘をつかない。本当にこんなことが起きたのよ。私の母がハーバー・ヴァリーのP.T.A.を殴ってしまった日なの》。そう、歌っているのはジョンソン夫人の娘という設定なんだ。ここに出てくる 'socked it to...' は、68〜73年まで放送されていた、アメリカの大人気TVコメディ番組「ローワン&マーティン」の中の決まり文句から取っている。

今でこそミニスカートは当然のように社会に受け入れられているが、68年のアメリカではまだまだNGだった。アメリカは昔から自由な国だと思われがちが、決してそうじゃない。この曲で歌われているのは、きつと今でも小さな町で起こっている話だろう。自分たちはガラスの家に住んでいると思うことにして、隣人に石は投げない方がいい。そう、肝に銘じておこう。